

指導力向上は、問題点の自覚から

学習指導記録の自己分析

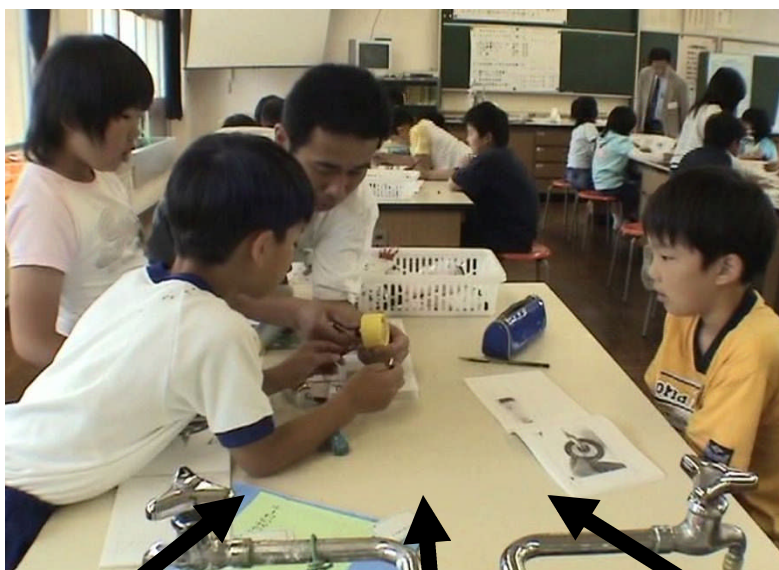
—学習指導力向上への提案—

06年10月～07年6月

新技術振興渡辺記念会助成調査研究

教師の指導力不足が社会問題となっています。特に、子どもの疑問や理解の状況に応じて指導する力、探究力を育てる力の不足が、重大だと考えます。

我々は、自分の授業記録を映像記録にとり、仲間同士で分析し問題点を捉えるという活動が、指導力向上のために大いに効果があると、考えています。



子どもの理解の状況を
とらえているか

適切な学習活動の場を
つくっているか

適切なアドバイスを
しているか

そこで、学習指導の簡易記録装置を作成して検証実験を行い、学習指導記録の分析活動の効果を調べました。その結果を、簡単にご報告します。

検証実験は、自分の学習指導映像記録を
仲間と分析し合うという方式で行いました。



多画面による指導記録映像



指導記録を分析

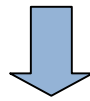
学習者の理解の状況や
指導の問題点を分析し
話し合う



調査研究のプロセス

1. 学習指導の分析に適した映像記録(探究的学習)の調査研究

- ①教師中心の記録と、学習者中心の記録の比較
- ②多画面映像と単画面映像の比較



2. 学習指導記録の分析の内部トライアウト (ベテラン教師の授業, 多画面映像)



3. 学習指導分析活動の効果測定 (教職課程の学生 3 人1グループによる)

1. 学習指導の分析に適した映像記録の研究

① 教師中心の記録と学習者中心の記録の比較

●教師の活動を追った場合は、指導前の学習者の状況、指導による学習者の変化がとらえられない。



学級全体への指導



グループへの指導①

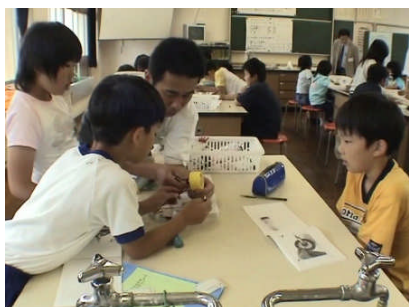


グループへの指導②

●指導前の学習者の状況、それに対する教師の指導、指導後の学習者の状況(変化したか)がとらえられる。



教師が来る前



教師の指導場面



指導後の学習者

② 単画面映像と多画面映像の比較

1つのカメラで撮影すると



学習者の身体の影響になり、学習活動がとらえにくい。

複数のカメラで撮影すると



左側2人、右側2人のそれぞれの活動がよくとらえられる

③ 多画面合成の構成－1



単画面映像



多画面合成すると、教師の陰になつた学習者をとらえられる

④ 多画面合成の構成－2

単画面映像 1



単画面映像 2



多画面合成すると、
教師の活動と学習者の活動の関係や
授業展開がとらえられる

3. 学習指導分析の効果測定

(教職課程の学生 3 人1グループによる)

1. 事前に子どもの学習と同じ内容の学習を体験



2. 探究学習の指導



簡易記録作成装置で
その場でDVD化



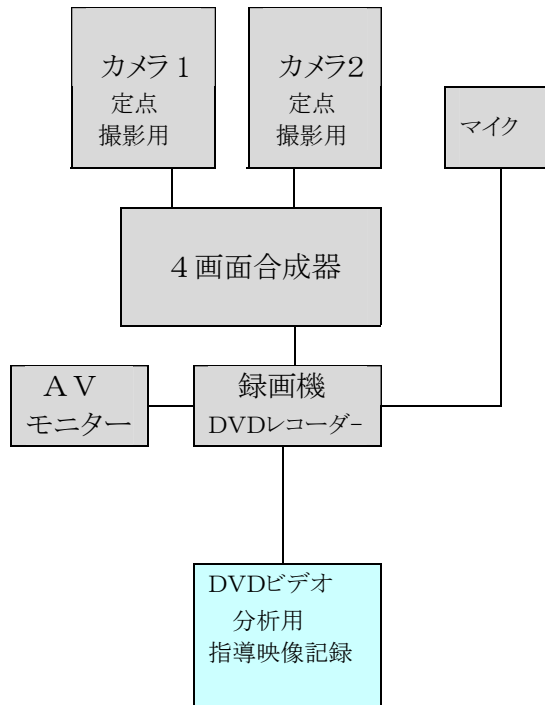
指導記録撮影

3. 指導記録を分析



学習指導を記録するための装置

機器構成図



構成したもの



設置したところ



記録された学習指導活動



トライアウト&検証実験の結果から

1. 映像記録分析活動の効果

集中的な模擬経験ができる

- 実際の授業では授業の進行で忙しく、学習者の行動の観察や指導のしかたを研究できない。適切な学習指導ができるようになるまでには時間がかかる。
- 映像分析では、さまざまな指導場面で学習者の行動観察や、教師の指導のしかたを集中的に経験できる。

問題点が見える、具体的な対応が考えられる

- 問題場面で映像を止め、何度でも繰り返し観察し、具体的な対応のしかたを考える。その積み重ねで、学習者の行動を観察する視点、指導者の行動を分析する視点が育つ。
(3時間で、そうした変化がはっきり現れた。)

客観的な姿勢を生み出す

- 自分の行動を、外側から見られるので、自然に客観的な姿勢ができる。
- 他からの指摘も納得できる。

協同・協調する力が育つ

一人の意見が他を刺激し、他のものの発想を生み、また別のものがそれを発展させていく。3人の意見が絡み合っただんだん視点が鋭くなり、アイデアが具体化していく過程が見られた。

学習体験が、学習指導の視点を育てる

- 探究的学習を指導するために必要な2つの視点の形成に、指導者自身の探究学習体験が効果的。
①探究活動を成立させる視点 ②学習者の主体的活動を助ける指導の視点
- 自身の探究活動から、「何をしたら、そのことがわかったのか」を自覚でき、どのような学習活動が必要か、教師はどう援助すべきかを考えるようになった。

2. 学生たちの感想

自分の映像記録の分析について

- ★自分の視野に入らなかった子どもの様子を観察できる。
- ★説明することに一生懸命になってしまうと、子どもの様子が見えなくなる。
- ★自分のしゃべるスピードがわかる(速すぎる)。
- ★自分のくせが良くわかる。
- ★自分の無意識的な発言が振り返れる。
- ★自分がしゃべっていると、子どもは活動しなくなる。

グループで分析しあうことについて

- ★他の人の考え方を取り入れることができ、視野が広がる。
- ★人に説明する中で、自分の行動の問題点が自覚できる。
- ★自分一人で振り返ると、迷うことが多いが、一緒に話し合う中で、改善していくことに前向きになれた。
- ★自分の対応のしかたについて、意見をもらえたことが良かった。

子どもと同じ学習を体験して

- ★自分で観察し、実験してみることで、本当にわかるようになる。
- ★説明を聞いただけでは、本当にはわからない。自分で活動することが大事だとわかった。

終了後の、共通した感想

- ★学習のしかたの指導が一番大事だとわかった。